

「身近さを感じる社協に」



平成19年12月、婦人会役員をはじめ地域の皆様の協力によりスタートした一宮町北部の「子育てサロン」

広報「こんにちは！社協です!!」は、各支部の担当者による編集会議を中心に編集・発行を行っています。福祉活動の現状や地域の取り組みの紹介など、福祉にかかわる情報の提供を中心に、より多くの市民の皆様が登場する紙面を目指して編集しています。

創刊から3年目となる平成19年度には、この広報に対する市民の皆様のご意見を聞かせていただく、「市民モニター」を取り入れました。毎回、ページ毎に内容や編集に関する貴重なご意見をいただいています。

新年号の今回は、この「市民モニター」の皆様に『2008年の宍粟市社協に期待する』ことをうかがいました。

市民モニターの皆さん

『紙面に対して』

▼社協は、特に市民が身近さを感じるようなところでなければいけない。支部としての力量によるが、支部の情報を待っている人がある。支部での身近な話題を地域版として差し込んで出せば、社協が動いていることがわかる。

▼一番好きなところは『ひ孫といっしょ』や『いきいきライフ』のほほえましいところ。文章は、わかりやすいが、なじみの無い言葉など難しいところがある。

▼合併しているのだから全体のこともっと押し出したほうがいい。地域にこだわっている。文章にカタカナが多すぎる。高齢の方を対象にしているのであれば、もうちょっとやさしく。



内海信之さん(千種町)



柴原宏二さん(一宮町)



上山まさゑさん(一宮町)

▼『善意銀行だより』などの掲載の仕方についてはいろんな意見があると思うが、地区別の報告はどうしても比較して見ている。

▼神戸新聞の『イイミミ』のような、普段の何気ない問い合わせに答えるような、『ブログ』のようなコーナーがあれば、参加しやすいと思う。今の紙面は意見を言うところがない。

▼普段の生活の中で、社協の活動は見えない。身近な事業でも、後に広報で、社協から助成金が出ていると初めて分かることがある。

▼広報は、月刊で定期的に発行されているのが良い。特に知ってもらいたいものがあれば号外を出すのもいいのではないか。